

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度 第1回上尾市地域創生総合戦略審議会		
開 催 日 時	令和8年8月18日(火) 10:00~11:08		
開 催 場 所	Web 会議 (Microsoft Teams を利用)		
議長(委員長・会長)氏名	上尾市地域創生総合戦略審議会 会長 佐藤 徹		
出席者(委員)氏名	佐藤 徹、根岸 遼、本田 直子、岸井 良雄、鹿島 貴彰 新道 龍一、島津 秋男、金澤 祥子、矢口 豊人、吉田 薫		
欠席者(委員)氏名	小島 時子、福岡 大介、高橋 萌香、福島 大介、秋元 宏章		
事務局(庶務担当)	行政経営部長 堀部 弘幸、行政経営部次長 島田 真樹 行政経営課長 角田 広高、行政経営課主幹 今村 公紀 行政経営課主任 橋本 香菜子、行政経営課主任 飯野 雄策		
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果	
	1 開 会 2 会議の公開について 3 議題 (1) 第2期上尾市地域創生総合戦略評価シート(令和7年度実績)に基づく上尾市地域創生総合戦略の評価について (2) 第3期上尾市地域創生総合戦略評価シート(案)について (3) 令和8年度上尾市企業版ふるさと納税対象事業について (4) その他 4 閉会	報告・説明と質疑応答	
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍 聴 者	0人
会 議 資 料	別紙のとおり		
議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 8 年 9 月 25 日 議長(委員長・会長)の署名 <u>佐藤 徹</u> 議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)			

議 事 の 経 過

司会 (島田次長) 鹿島委員	1 開 会 定刻になりましたので、「令和8年度第1回上尾市 地域創生総合戦略 審議会」を開会いたします。私は、司会進行を務めさせていただきます 行政経営部次長の島田と申します。よろしくお願いいたします。初めにオンライン会議をする上での簡単なルールを2点お話しします。1点目、発言する方以外は雑音が入らないようにするためにマイクの機能をオフにいただければと思います。2点目、ご発言又はご意見いただく時は、挙手、もしくはリアクションボタンの「挙手」を押し、自分のマイクをオンにいただき、氏名を名乗り、案内されてから発言するようにお願いします。以上2点です。ご協力の程よろしくお願いいたします。それでは、会議に入らせていただきます。本日の審議会では、<u>10名</u>の委員さんに出席いただいております。本日の審議会は、条例第6条2項の規定に基づき、委員の過半数（8名以上）の出席がありましたので、有効に成立していることをご報告いたします。 まず、新たに就任された委員をご紹介します。 大宮公共職業安定所業務部長の鹿島 貴彰委員でございます。 (あいさつ)
司会 (島田次長) 吉田委員	埼玉県県央地域振興センター所長の吉田 薫委員でございます。 (あいさつ)
司会 (島田次長) 司会 (島田次長) 事務局 (角田課長) 司会 (島田次長)	なお、上尾市PTA連合会副会長の福島 大介委員につきましては、所用により欠席でございます。 2 会議の公開について 次第に沿って進めさせていただきます。次第の「2 会議の公開について」です。事務局から説明します。 本審議会につきましては、「審議会等の会議の公開に関する指針」に従いまして、同指針策定後の初めての審議会において「原則公開」ということで採択されております。なお、傍聴希望者はありません。 それでは、条例第5条第2項の規定によりまして、今後の進行は、佐藤会長にお願いします。
佐藤会長 事務局 (角田課長)	3 議題 それでは議事の進行を務めさせていただきます。次第の「3 議題」に入ります。議題（1）第2期上尾市地域創生総合戦略評価シート（令和7年度実績）に基づく上尾市地域創生総合戦略の評価について、事務局からご説明をお願いいたします。 それでは、資料1をご覧ください。こちらは、令和3年度からスタートした第2期「上尾市地域創生総合戦略」について、令和7年度の実績を取

りまとめたものです。第2期総合戦略では、大きく「活力にあふれたにぎわいあるまちづくり」「明日を担う人が育つまちづくり」「魅力があり安心して暮らすことができるまちづくり」の3つを基本目標として設定しており、それに直結する数値目標や、関連するKPI（重要業績評価指標）が全部で24項目ありました。令和7年度をもって第2期総合戦略の計画期間が終了したことから、各項目の達成状況を踏まえ、評価・総括を行いました。まず、1ページ目・2ページ目の総括表をご覧ください。はじめに、評価方法についてご説明いたします。

まず、令和3年度から令和7年度までの各年度における目標の達成状況でございますが、年度の目標値を達成した場合は実績値の右側に「達成」、達成できなかった場合は「未達成」を記載しております。また、計画期間中に目標値を上方修正した項目については、総括表左側の「目標値」の欄に修正前後の目標値を記載しております。次に、総括表の中央より左側の「5年間の達成状況」の欄では、5年間の総括としての評価を行っております。この「5年間の達成状況」の評価区分でございますが、

「最終年度の実績値が目標値を達成しているもの」の場合はA、

「目標値を上方修正した指標で当初目標値は達成しているもの」の場合はB＋、

「最終年度の実績値が目標値に対して達成率80%以上のもの」の場合はB、

「最終年度の実績値が目標値に対して達成率80%未満のもの」の場合はC

の4段階で評価しております。

その結果、全24項目のうち、A評価が10項目、B＋評価が2項目、B評価が8項目、C評価が4項目となりました。全体の割合としては、Aが41.7%、B＋が8.3%、Bが33.3%、Cが16.7%となりました。A評価、B＋評価を「達成」としますと、第2期総合戦略においては50%達成したということになります。

続いて評価区分ごとの内訳についてご報告します。A「最終年度の実績値が目標値を達成しているもの」は、基本目標1「活力にあふれたにぎわいあるまちづくり」では、市内法人の従業者数、利用権が設定された農地の面積の2項目、基本目標2「明日を担う人が育つまちづくり」では、学校に行くのは楽しいと答える児童生徒の割合、子育て世代包括支援センターでの対応延べ件数、保育園の待機児童者数、放課後児童クラブの待機児童者数の4項目、基本目標3「魅力があり安心して暮らすことができるまちづくり」では、転入超過の数、SNS登録者数、防災士の育成人数、災害時応援協定の延べ件数の4項目の合計10項目でした。

B＋「目標値を上方修正した指標で当初目標値は達成しているもの」は、基本目標1の中小企業サポート件数、基本目標3のふるさと納税の寄附額の2項目でした。

B「最終年度の実績値が目標値に対して達成率80%以上のもの」は、基本目標1では、法人市民税額、キャリア形成支援対象者数の2項目、基本目標2では、年少人口、児童館の利用者数、上尾市学力状況調査における市内標準得点の3項目、基本目標3では、地域防災訓練の実施率、健康寿命、各種がん検診の受診率の3項目の合計8項目でした。

C「最終年度の実績値が目標値に対して達成率80%未満のもの」は、それ以外の4項目（基本目標2の地域子育て支援拠点の利用者数、学校応援団延べ活動日数、基本目標3のスポーツ・レクリエーション事業の参加者

佐藤会長	数、市内循環バス「ぐるっとくん」利用者数)でした。 次に、総括表の一番右側「基本目標ごとの評価・総括」の欄についてご説明いたします。令和7年度をもって第2期総合戦略の計画期間が終了しましたので、評価・総括を記載しました。評価・総括は、基本目標全体についての「全体総括」と、抜粋した数値目標またはK P I（重要業績評価指標）ごとの「個別総括」に分けて記載しております。それでは、基本目標ごとに評価・総括をご説明します。 基本目標1「活力にあふれたにぎわいあるまちづくり」の「全体総括」については、数値目標の達成状況がA評価、重要業績評価指標（K P I）は半数がAないしB+の評価となっており、概ね達成となりました。引き続き地域経済の活性化を図るため、第3期総合戦略においても、中小企業等への支援や企業立地の推進などの取組を進めてまいります。個別総括につきましては、資料1をご覧くださいいただければと存じます。 続いて、基本目標2「明日を担う人が育つまちづくり」の「全体総括」については、数値目標の達成状況がA及びB（98%）評価、重要業績評価指標（K P I）はA：3つ、B：2つ、C：2つとなっており、全体としては概ね達成となったものの、一部の指標ではコロナ禍での社会的変容を受けた結果となりました。引き続き子育て世代に選ばれる環境づくりを進めていく必要があるため、第3期総合戦略においても、妊娠・出産・子育て期にわたり切れ目のないサポートを充実させるとともに、保育所等、こどもを預けられる環境の整備・充実を主な取組として推進してまいります。個別総括につきましては、資料1をご覧くださいいただければと存じます。 続いて、基本目標3「魅力があり安心して暮らすことができるまちづくり」の「全体総括」については、3つの数値目標の達成状況はAが1つで残りがB評価、重要業績評価指標（K P I）は半数以上がAないしB+評価となりましたが、C評価が2つとなりました。基本目標に掲げる「魅力があり安心して暮らすことができるまちづくり」に資する施策の結果としては、「転入超過の数」が示すとおり概ね達成していると評価できる一方、イベントなど人が集まる取組の一部の指標では、コロナ禍での影響をはじめ、高齢化や地球温暖化による気象の変化、施設更新など外的事由による影響を強く受ける結果となりました。第3期総合戦略においても、SNSを活用した情報の発信やイベント、スポーツ機会等の充実、防災力の向上を図り、多くの人々が本市に魅力を感じ、安心・安全に暮らすことができるよう取組を進めていくことが求められます。個別総括につきましては、資料1をご覧くださいいただければと存じます。 以上が基本目標ごとの評価・総括でございますが、各項目の「経過の考察」や「今後の見通し」につきましては、総括表の次から始まる個別シートに記載しておりますので、別途ご覧くださいと存じます。また、それぞれの取組内容に関する「5年間の総括」も個別シートに新たに追加しておりますので、こちらも合わせてご覧くださいと存じます。 最後に、総括表の「基本目標ごとの評価・総括」欄の左側の列「第3期引継ぎ」に○がついている項目は、今年度からスタートした第3期上尾市地域創生総合戦略においても引き継いだものでございます。 説明は以上でございます。 ただいまの事務局の説明について委員の皆様からご意見ご質問などございましたらお願いいたします。それでは、吉田委員お願いします。
------	--

吉田委員	B＋評価の中小企業サポート件数について、令和7年度実績はコロナの収束に伴い上方修正した目標は達成していないけれど、今後は中東情勢の影響もあり相談件数は増えてくると予想されますが、令和8年度に向けての目標設定はどのように考えているのか教えてください。
佐藤会長	事務局からお願いいたします。
事務局 (今村主幹)	中小企業サポート件数につきましては、新型コロナウイルス感染症関連の補助金等に関する相談が多かったことから、一時的に件数が増加しておりました。令和5.6年と少し落ち着いてきておりますが、物価高等の影響もあり、相談件数は伸びてきております。また、中小企業サポートセンターについては、無償でご利用いただける制度となっておりますので、件数はある程度伸びてくると見込まれます。なお、第3期総合戦略の中では個別事業としては設定しておりませんが、担当課の事業計画等において対応を進めていく予定としており、相談があれば対応できる体制は整えております。
吉田委員	よくわかりました。ありがとうございます。
佐藤会長	先ほど吉田委員からのご質問に関連して事実確認ですが、第3期総合戦略の計画において目標値を設定した時点で、中東情勢の影響を見込んだ上で設定されていたのか教えてください。
事務局 (角田課長)	中小企業サポート件数については、第3期総合戦略では指標としては掲げておりません。中東情勢の影響については、すでに策定時には反映するのは難しいところがありました。
佐藤会長	中小企業サポート件数については、第3期総合戦略の指標としては設定されていないということですね。他の指標については、中東情勢の影響を考慮した上で目標値を設定していたのでしょうか。
事務局 (角田課長)	指標を設定した段階では、時期的に中東情勢による影響までは想定はしておりませんでしたので、今後、影響が生じた場合は、進捗管理を行う中で見直すこともあるかと考えております。その際は、審議会等でご意見をいただきながら、対応してまいりたいと考えております。
佐藤会長	他にございませんか。無ければ、議題(2)「第3期上尾市地域創生総合戦略評価シート(案)について」事務局より説明をお願いします。
事務局 (角田課長)	資料2をご覧ください。本年度からスタートした第3期上尾市地域創生総合戦略の評価方法としては、第2期総合戦略までのような「評価シート」と新たな「ロジックモデル図」の2つのシートを活用し、進捗管理を行ってまいります。今回、新たにロジックモデル図を活用することとしたのは、昨年度の審議会において、「第2期総合戦略のときのような評価シートだけでは、取組項目の成果に至るまでのプロセスや要因を十分に振り返ることが難しい」とのご意見があり、それを踏まえて第3期総合戦略に「EBPMの考え方を踏まえ、ロジックモデル図を活用して進捗管理・評価を行っていきます」(41ページ中段「2 目標達成に向けた着実な進捗管理」)

と明記したためでございます。

第3期総合戦略においては、各取組についてロジックモデル図を作成することで、取組の所管課では取組の目的や内容、成果までのつながりを可視化し、言わば“地図”として機能させることが可能となります。また、ロジックモデル図をPDCAサイクルの視点から適宜更新することで、取組の進捗状況や課題、改善すべきポイントをより効果的に管理できるものと考えております。なお、ロジックモデル図は本体となる評価シートの添付資料として管理する予定でございます。本体の評価シートは第2期戦略の評価シートをベースに作成しております。このように、第3期戦略においては、評価シートとロジックモデル図を一体的に活用することで、より効果的な進捗管理と評価に繋げてまいります。

次に、評価シートについてご説明します。3ページの記入例（説明あり）の資料をご覧ください。こちらは、ふるさと納税の寄付額を記入例として記載しております。上段部分の「基本目標（最終成果）」、「数値目標」、「施策」、「重要業績評価指標（KPI）」には、第3期総合戦略策定時に設定した指標や目標値を記載する欄になります。また「基本目標」から「指標の位置づけ」までは、ロジックモデル図と同じ内容になります。

次に中段部分になりますが、まず、「目標値」には、各年度の目標値を設定の上、記載します。「実績値」には、各年度の実績値を記載します。「進捗状況」には、目標値と実績値を示したグラフを挿入しております。また、各年度の目標値に対して実績値の達成状況を達成または未達成で選択します。「主な総合戦略実施事業」には、「重要業績評価指標（KPI）」に該当する予算額と決算額を記載します。「経過の考察」には、各年度の達成状況を踏まえて要因や経過を記載します。「今後の戦略」には、各年度の達成状況を踏まえて今後を取組などを記載します。評価シートについては、年度ごとの振り返り及び今後の取組を記載することで、成果や課題に係る要因分析をより効果的に行うことができるものと考えております。

最後に、ロジックモデル図についてご説明します。6ページの記入例（説明あり）の資料をご覧ください。こちらにも、ふるさと納税の寄付額を記入例として記載しております。上段部分の「基本目標（最終成果）」、「数値目標」、「施策」、「重要業績評価指標（KPI）」には、評価シートと同様に第3期総合戦略策定時に設定した指標や目標値を記載する欄になります。

次に中段部分は、ロジックモデルの流れを示すフローチャートになっており、「1課題」から「7最終成果（インパクト）」までの各項目を記載します。「1課題」には、現状の問題点や解決すべき課題を記載します。「2投入（インプット）」には、活動を実施するために必要となる人的・財政的資源や関係機関との連携体制などを記載します。「3活動（アクティビティ）」には、問題に対処するために実施する具体的な取組や活動を記載します。「4産出（アウトプット）」には、活動の結果として得られる成果や指標を記載します。「5直接成果（アウトカム）」には、活動実施によってもたらされる直接的な効果を記載します。基本的には、各施策で設定している重要業績評価指標（KPI）を記載します。「6中間成果（アウトカム）」には、「5直接成果（アウトカム）」と「7最終成果（インパクト）」の中間に位置する成果を記載します。活動完了後の一定期間後に期待される変化や効果を示すものであり、最終成果へとつながる項目となります。「7最終成果（インパクト）」には、第3期総合戦略において設定している基本目標を記載します。また、「4産出（アウトプット）」から「7最終成果（インパクト）」までについては、指標名や基準値などの関連情報を併せて記載し

	ます。 下段部分の複線欄には、上段で記した取組に加え、課題解決や目標達成につながる複数のルートが考えられる場合に記載してもらうことを想定しております。なにぶんロジックモデル図を様式として採用するのは初めての試みでもありますので、所管課と事務局で協力し合いながら作成してまいります。 説明は以上でございます。
佐藤会長	ただ今の事務局の説明に対して、ご意見・ご質問などございましたらお願いします。それでは、吉田委員お願いします。
吉田委員	第3期総合戦略では基本目標や施策に対してどのようなKPIを設定しているのでしょうか。
佐藤会長	事務局からお願いいたします。
事務局 (角田課長)	参考資料の第3期総合戦略の計画の34ページをご覧ください。こちらに基本目標について順に記載されています。基本目標1の「活力にあふれたにぎわいあるまちづくり」では、数値目標として「業況が良い・普通と感じている市内商工業者の割合」を設定しております。また、KPIにつきましては、施策1「地域経済の活性化」において、「創業支援等事業を活用した創業者数」、「地域計画における目標地図の完成率」を設定しております。続いて35ページをご覧ください。施策2「地域資源の活用」につきましては、「ふるさと納税の寄附額」、「あげお文化遺産ガイドのアクセス数」の2つをKPIとして設定しております。基本目標2につきましては、36ページ、基本目標3につきましては、39ページ以降にそれぞれ記載しております。
吉田委員	ありがとうございます。
佐藤会長	他にありませんか。それでは、根岸委員お願いします。
根岸委員	ロジックモデルを今回初めて導入するとのことですが、これまでのABC評価を見ていると、例えばA評価だった場合にどのような成果や効果が得られたのか、またB評価だった場合に何が不足していたのかといった点が見えにくく、評価結果が政策のインパクトとどのように結び付いているのか分かりにくいと感じました。ロジックモデルの導入は有効な手法だと思いますが、これまで実施してきた事業について、実際の成果をロジックモデルに当てはめて検証し、「この政策は効果があった」「この政策は十分な効果が得られなかった」といった分析は行っているのでしょうか。
佐藤会長	事務局からお願いいたします。
事務局 (角田課長)	過去に行われた事業に対して検証のためにロジックモデルを用いたことはございません。今後、事業を進めていくにあたりロジックモデルを活用していこうというのが今回の新たな試みでございます。

根岸委員	指標や目標値は、何を根拠に設定したのか教えてください。
事務局 (角田課長)	本来であれば、ロジックモデルを作成する過程で指標や目標値を設定するところですが、第3期総合戦略で指標や目標値は既に設定されています。目標値の達成に向けてどのように事業を進めていくべきかを検討した結果、ロジックモデルを活用することとしました。計画策定時点では、ロジックモデルを活用するまでには至っていなかったというのが実情でございます。
根岸委員	ありがとうございます。承知しました。
佐藤会長	目標値は既に設定されていることから、後から今回ロジックモデルを使って進捗管理評価をするということなので、ロジックモデルという枠組みを使って整理し直すという理解でよろしいかと思います。他にありませんか。それでは、金澤委員お願いします。
金澤委員	質問が2点あります。まず1点目は、第2総合戦略の計画期間である令和3年度から7年度まではコロナの影響もあり、この期間にオンライン環境の整備やハイブリッド型の構築を進められてきたものと認識しております。第3期総合戦略の計画では、デジタル基盤を活用しながら、新しい様式に合わせた魅力創出に向けた方向性へ転換していくことを検討されているのでしょうか。2点目は、ロジックモデルは審議会等に提示しながら作成していくのか教えてください。
事務局 (角田課長)	まず、ロジックモデル図の方から説明させていただきます。こちらにつきましては、各事業を担当している所管課に作成し、その内容を事務局で確認します。必要に応じて審議会等へお示しすることもあると考えております。ロジックモデルは基本的には各取組を進める際の道筋や考え方を整理するための地図のようなものとして活用するものであり、進捗管理や評価に当たっては、もう一つの評価シートが中心になるものと考えております。もう一つのデジタル化の活用でございますが、第3期総合戦略においても可能な限り入れるようにはしております。第3期総合戦略に位置付けられた各事業に取り組んでいき、引き続きデジタル化を活用していくことに変わりはございません。
金澤委員	国の交付金等の対象となり得る事業が総合戦略に入っているのか教えてくださいませんか。
事務局 (角田課長)	国の交付金等については、総合戦略に事業が位置付けられていることが要件となる場合もございますので、そうした制度を活用できるよう対応した内容としております。
金澤委員	ありがとうございます。
佐藤会長	ロジックモデルは本来、計画策定の段階で計画と併せて作成する「プランニングツール」といいまして、計画を作る段階で、計画と一緒に合わせて、ロジックモデルを作っておくというのが本来のあり方なんです。しかしながら、計画策定後にロジックモデルを作成してはいけないというわ

	けではありません。今回は順序が前後している部分もあるかもしれませんが、第3期総合戦略の進捗管理や評価にこのフレームを活用していくため、事務局からご提案いただいたものです。ロジックモデルについては、今回資料として記入例が示されていますが、これはあくまでイメージ図であり、内容についてはまだ確定しておらず、今後、庁内で検討を進めながら具体化していく予定という理解でよろしいでしょうか。
事務局 (角田課長)	おっしゃるとおりでございます。
佐藤会長	他にございませんか。無ければ、議題(3)「令和8年度上尾市企業版ふるさと納税対象事業について」事務局より説明をお願いします。
事務局 (角田課長)	資料3をご覧ください。 企業版ふるさと納税は、自治体が行う地方創生の取組に対し、企業が寄附した場合に、税制上の優遇措置が受けられる制度でございます。企業版ふるさと納税の寄附対象事業を位置付けるためには、例えば、取組内容が上尾市地域創生総合戦略を踏まえた地域再生計画(本市では「上尾市まち・ひと・しごと創生推進計画」)に合致していることなどが条件となっております。今回お示ししている資料は、本市における令和8年度の新規・拡充事業を中心に選定・整理し、一覧としてまとめたものでございます。 企業版ふるさと納税につきましては、これまで毎年10本程度の事業を対象としておりましたが、昨年、議会から「企業が寄附しやすいよう、対象を広げた形で募集してはどうか」との意見がございました。そのため、令和8年度からは、企業が寄附先を選びやすい環境を整えるため、総合戦略及び地域再生計画に示している3つの基本目標「活力にあふれたにぎわいあるまちづくり」「魅力があり安心して暮らすことができるまちづくり」「明日を担う人が育つまちづくり」という大きな括りで募集するとともに、対象事業の数を拡充し、一覧に掲載している24事業を「特に寄附をお願いする対象事業」として寄附を募る予定でございます。 説明は以上でございます。
佐藤会長	ただ今の事務局の説明に対して、ご意見・ご質問などございましたらお願いします。金澤委員お願いします。
金澤委員	目標金額を設定した基準はあるのか教えてほしいです。
佐藤会長	事務局からお願いいたします。
事務局 (角田課長)	基本的には予算額になりますが、特定財源があればそれを差し引いた額としております。
金澤委員	企業が寄附しやすいよう対象を幅広く設定しているため、ある程度の自由度はあるのかもしれませんが、寄附を募るに当たり、選ばれやすい事業や目標金額の達成が見込まれる事業などを、ある程度決めているのか教えていただきたいです。
事務局	先ほど説明させていただいたとおり、これまでは事業を限定し、その事

(角田課長)	業に対して寄附をいただく形としておりました。しかし、企業が寄附しやすいよう、例えば「活力にあふれたにぎわいあるまちづくり事業」といった施策の柱ごとの大きな区分でも寄附を受けるほか、具体的な事業を指定して寄附いただくことも可能としております。合わせて対象事業数も拡大しており、昨年度と運用方法を変更したところです。
金澤委員	ありがとうございます。
佐藤会長	続きまして議題（４）その他について事務局から何かございますか。
事務局 (角田課長)	次の開催は１１月下旬ごろを予定しております。
佐藤会長	それでは以上で議事を終了いたします。進行を事務局にお返しします。
司会 (島田次長)	ありがとうございました。それでは、最後に本田副会長からごあいさつをお願いいたします。
本田副会長	【閉会あいさつ】 以上